

令和7年度

試験名： 推薦入試

【人間学群 障害科学類】

区 分	標準的な解答例又は出題意図
一般	今回の推薦入学試験では、障害科学類の専門分野に関連するテーマを扱った英文を読ませることによって、英文の読解力と論述における論旨の明確性、論理性、独自性を評価することを目的としている。 障害科学は学際的な学問であり、近年のテクノロジーの進歩によって、テクノロジーを活用した新たな支援技術の活用例もみられるようになっている。今回は、テクノロジーによる支援技術を必要としている障害児者の状況についての記事である“Almost one billion children and adults with disabilities and older persons in need of assistive technology denied access, according to new report (WHO, 2022 年; 英文①)”と、障害のある児童・生徒へのテクノロジーによる支援の具体的な実態についての記事である“Learners with disabilities and technology: advocacy brief, (UNESCO, 2024 年; 英文②)”を取り上げ、一部改変して用いた。 問題1では、下線部の英文を日本語に訳すことを求めている。問題2では英文①を読み、現在の様々なテクノロジーを利用した支援技術があるにもかかわらず、障害を持つ子どもや大人、および高齢者が必要な技術にアクセスできていないという世界的な現状について、要約することを求めている。問題3では、英文①での、障害児者・高齢者とテクノロジーに関する世界の現状、そして障害のある生徒が支援技術の利用でどのような利点があるのかに関する英文②の内容、この2つをふまえたうえで、障害児者にテクノロジーを活用することによる課題について自らの考えを論じることを求めている。テクノロジーの進歩により、その支援技術を効果的に利用できるならば障害児者のアクセシビリティは向上するといえるが、単に提供するだけではよい活用とはなりえない。 本問題では、世界的な現状を理解した上で、支援技術に関する現状の問題点について自ら考え、改善し活用に至るまでにはどのように課題を解決すればよいか、現状とその先の未来について、論理的に思考し論述できるか、について求めている。 以上のような点から、本問題は障害科学類の小論文問題として取り上げるに適切であると考える。